



代表取締役社長
三宮 康司 氏
さんのみや こうじ

社長が語る 「ものづくりへの想い」

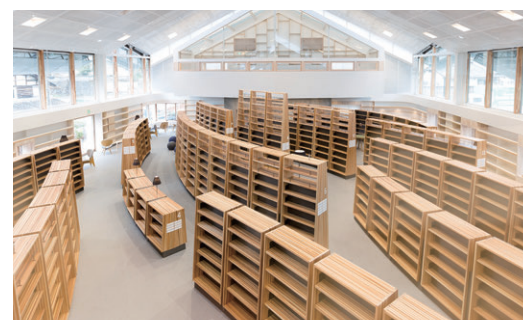
スギにしても、強度のある日田杉や水に強い鉄肥（おび）杉など、品種は同じでも特徴はさまざま。それをどう使うかは、まさに『適材適所』。木を知るほどに奥深くて興味が尽きないんです。



大分県産材をこだわりとし、住宅はもちろん、公共施設や建築物など建築資材として木材を提供。柔軟な取り組みが木材活用の飛躍を担う。



量産化を可能にするNCルーター。刃を変えることで細かい加工や複雑なデザインのニュアンスを丁寧に切り出す。



書架にそって風が流れる竹田市図書館。

monozukuri
3

木材・木材製品製造業

**志村製材
有限会社**

〒870-0278
大分県大分市青崎1丁目13-58
TEL 097-521-2774

NCルーターは、平成29年に竣工し

**デザイナーの発想をカタチに
木の年輪をスギ集成材で表現**

残せるようNCルーターで彫ることに。「カッティングシートだと、いざれ剥がれたときに木の看板まで使われなくなる。木の良さを表現したいなら、文字を残せるように工夫して、最善の知恵を尽くすのが木材屋の仕事です」。

た竹田市図書館の書架製作でも活躍することに。大分県産の大分県産スギ集成材とスチールフレームを組み合わせ、湾曲しながら緩やかに並ぶ書架は全137台。その集成材のすべてを加工・製作し、竹田の「風の流れ」を館内に取り込む書架のイメージを実現しました。「家具デザイナーが描いたのは、本棚が大地から幹を伸ばすように、木の年輪が「縦」に見えること。もちろんその通りにはできないけど、集成する木の1

本あたりの幅をより細かくし、色の違うスギの重なりで年輪を表現する。デザイナーの発想をカタチにしたかったんです。製作期間は約1年半。設計士やデザイナーとの打ち合わせもあわせ、3年間に及ぶ大仕事でした。木の本質を知り尽くしているからこそ「できないことを、できるようにする」。それが志村製材の強みです。

JR九州大分支社の木造オフィスやホルトホール大分の市民ホールなど、県産材をふんだんに使った空間づくりに大きな役割を果たしたのは、昭和42年設立の志村製材有限会社。「木は、触れてこそ見えるもの。それを表現してくれるデザイナーのアイデアに手を貸したいんです」とは3代目となる三宮

**木の素材感を生かす屋外看板
耐久性を高めるモックル処理**

福岡大学景観まちづくり研究室から依頼のあった『長崎県五島列島誘導サイン』もそのひとつ。屋外木製看板の

また誘導サインの文字加工は、長く

**木の良さを表現し、文字を残す
最善の工夫と知恵を生かす**

課題は、風雨に傷みやすぐ経年劣化が進むこと。そこで施したのは、酸化亜鉛含浸処理（モックル処理）塗装。防腐効果が高く、耐光性にも優れた高耐久性木材は、木の素材感を損なうことなくデザインを生かしています。

☑ monozukuri-3 Shimuraseizai

3

志村製材 有限会社

**木が活きる、アイデアを活かす
表現のおもしろさを追求する**

ひとつとして同じものがない
“木”のよさを

あますことなくすべて使う。

できないのではなく

「できるように」

木を知り尽くした知恵と工夫が
表現者ともにおもしろさを生み出す。



導入したのは、白蟻や腐食を防ぐ酸化亜鉛含浸処理（モックル処理）をしたあと、看板を黒色に仕上げる塗装機。モックル処理は耐久性を高めるだけでなく、木の割れ・そり・あばれを減少させる効果もあり、看板の寸法安定性にも優れている。

導入のポイント
**防腐耐久性を高める
「モックル処理」塗装**